

お台場旧防波堤（鳥の島 2 島）における鳥類のモニタリング調査 冬季調査（1 月）報告書

平成 29 年 2 月 お台場海づくり協議会

1. 調査目的

お台場海浜公園内防波堤（通称鳥の島）における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、今後の経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

お台場海浜公園内堤防（通称鳥の島） 2 島及び周辺水域（周辺 50m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
平成 29 年 1 月 12 日（木）	8 : 00 ~ 14 : 00	晴れ

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8 ~ 10 倍程度の双眼鏡や倍率 20 ~ 60 倍程度の望遠鏡などを必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（2） ~ （4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。

（1） 船上センサス

鳥の島の 2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、鳥の島及び周辺を観察し、目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。

（2） ラインセンサス

各島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1 ~ 2 km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。センサスルートは各島に 1 本を設定し、観察範囲は片側 50m（両側 100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の各2点に眺望の卓越した定点を設定し、目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

鳥の島の2島を任意に踏査し、目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。



写真 1 各調査手法における調査風景



図 1 調査地点図

5. 調査結果

(1) 現地調査結果

- 現地調査の結果、10 目 21 科 34 種の鳥類を確認した（表 2）。
- 確認種の多くは水域やその周辺に生息する鳥類であり、スズガモやカワウ、アオサギ、イソシギ、ユリカモメ、ウミネコ、ハクセキレイなど 17 種を確認した。また、島内には小規模な樹林環境や草地環境が見られ、モズやシジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、カワラヒワなどの森林やその周辺に生息する種を 13 種確認した。そのほか、猛禽類であるトビやハイタカ、ノスリ、都市部に普通に生息するキジバトやハシブトガラス、スズメなども確認した。
- 確認種は、スズガモやユリカモメ、ツグミ、ジョウビタキなどの冬鳥（ある地域で冬に見られる種）と、カルガモやカワウ、シジュウカラなどの留鳥（ある地域で一年中見られる種）であった。
- 確認個体数が多かった種はカワウとスズガモであった（表 3～5）。船上センサスに

において、カワウは2島で合計111個体(表3)、スズガモは2島で合計143個体を記録した(表3)。カワウは、巣材運びや求愛行動など繁殖に関わる行動を確認した。スズガモは、主に島周辺の海上で休息する個体を多数確認した。

- ラインセンサスと定点観察では、ヒヨドリの優占度が高かった(表4～表5)。
- ノスリは2島を往来する個体を確認した。また、ノスリが捕食したと考えられる新しい食痕(ネズミ類)を確認したことから、島内を採食や休息場所として利用していると考えられる。
- 重要種は、スズガモ、カンムリカイツブリ、オオバン、イソシギ、トビ、ハイタカ、ノスリ、カワセミ、モズ、イソヒヨドリの合計10種を確認した(表2)。海上ではスズガモ、カンムリカイツブリ、護岸ではオオバン、イソシギ、カワセミ、イソヒヨドリを確認し、採食や休息などの行動を観察した。島内の樹林では樹木にとまるノスリやモズ、島の上空ではトビ、ハイタカを確認した。このうち、特に保全上重要度の高い種としては、ハイタカ、ノスリの2種が挙げられる。
- 2島の低茎草地上で、フクロウ類の羽根を取得した。羽根の模様からコミミズクの可能性が高く、島内を採食や休息場所として利用していたと考えられる。コミミズクであれば、東京都の絶滅危惧ⅠA類に該当する貴重な種である。

(2) 前回調査との比較

- 平成27年の夏季(6月)～平成28年春季(4月)までの調査を第1回、平成28年秋季(10月)以降の調査を第2回とし、第1回と第2回の冬季調査の結果を比較したところ、第1回では島の北側(以下、北側)で29種、島の南側(以下、南側)で25種、合計34種、第2回では北側で30種、南側で27種、合計34種であった(表6)。第1回の確認種のうち、約8割(28種)は第2回でも確認されており、鳥類相に大きな変化はなかった。
- 第2回で新たに確認した種は、マガモ、ミミカイツブリ、トビ、ハイタカ、カワセミ、モズの6種であった(表6)。モズは第2回の秋季調査に引き続き確認した。島内で草刈りが実施されたことにより、林縁部や草地などの開放的な環境を好む本種にとって好適な採食場所が創出されたため飛来し、越冬していると考えられる。それ以外の種については、偶発的に出現した可能性が高い。
- 外来種は第1回で確認したドバトのみであり、島に定着する個体は確認されていない。
- 種数及び個体数の変化について、調査手法別に比較を行った(表7～9)。その結果、種数に大きな変化は見られなかったが、個体数の変化に傾向が見られた。まず、スズメについては、船上センサスの第1回では最も個体数の多い種であったが、第2回では1個体にまで著しく減少した(表7)。第2回では、採食や休息環境であった高茎草地の大部分が草刈りによって一時的に消失したために、個体数が減少したと

考えられる。

- ラインセンサスの第1回ではスズメの優占度が最も高く、第2回ではヒヨドリとカワウが高かった（表8）。ヒヨドリは島内の樹木の果実を採食する姿が目立ち、島内の樹林環境が好適な採食場所になっていると考えられる。カワウは第1回に比べて優占度が高くなっているものの、個体数に大きな変化は見られず、スズメの減少によって相対的に優占度が高くなったものと考えられる。
- 定点観察調査についても、ラインセンサスと同様の傾向であった（表9）。
- 第1回では草地性の種であるホオジロが確認したが、第2回では確認されなかった。スズメ同様、採食場所となる高茎草地の大部分が一時的に消失したためと考えられる（表9）。
- そのほかの種については、個体数の変化に顕著な傾向は見られなかった。

表 2 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	調査時期		重要種選定基準			
				冬季(1月)		①	②	③	④
				北側	南側				
1	カモ	カモ	マガモ	○					
2			カルガモ	○					
3			スズガモ	○	○				留
4	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	○	○				留
5			ミミカイツブリ	○					
6			ハジロカイツブリ	○	○				
7	ハト	ハト	キジハト	○	○				
8	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○				
9	ペリカン	サギ	アオサギ	○					
10	ツル	クイナ	オオバン	○	○				VU
11	チドリ	シギ	イソシギ	○	○				VU
12		カモメ	ユリカモメ	○	○				
13			ウミネコ	○					
14			セグロカモメ	○	○				
15			オオセグロカモメ	○	○				
16	タカ	タカ	トビ	○	○				NT
17			ハイタカ		○			NT	EN
18			ノスリ	○	○				EN
19	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	○					VU
20	スズメ	モズ	モズ		○				VU
21		カラス	ハシブトガラス	○	○				
22		シジュウカラ	シジュウカラ	○	○				
23		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○				
24		ウグイス	ウグイス	○	○				
25		メジロ	メジロ	○	○				
26		ヒタキ	シロハラ	○	○				
27			アカハラ		○				
28			ツグミ	○	○				
29			ジョウビタキ	○	○				
30			イソヒヨドリ		○				DD
31		スズメ	スズメ	○					
32		セキレイ	ハクセキレイ	○	○				
33		アトリ	カワラヒワ	○	○				
34		ホオジロ	アオジ	○	○				
合計	10 目	21 科	34 種	30 種	27 種	0 種	0 種	1 種	10 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2. 重要種選定基準は以下の通りである。

①文化財保護法(昭和 25 年、法律第 214 号)

天:天然記念物 特:特別天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号;平成 23 年改訂)

内:国内希少野生動物 際:国際希少野生動物

③「環境省レッドリスト 2015 の公表について」(平成 27 年、環境省)における掲載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧種 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

④「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部解説版)～」(平成 25 年、東京都)における区部の掲載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留:留意種

表 3 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				冬季(1月)		
				北側	南側	
1	カモ	カモ	カルガモ	2	0	2
2			スズガモ	76	67	143
3	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	2	0	2
4			ハジロカイツブリ	1	1	2
5	ハト	ハト	キジバト	3	1	4
6	カツオドリ	ウ	カワウ	63	48	111
7	ペリカン	サギ	アオサギ	1	0	1
8	ツル	クイナ	オオバン	6	4	10
9	チドリ	シギ	イソシギ	3	1	4
10		カモメ	ユリカモメ	4	0	4
11			オオセグロカモメ	1	0	1
12	タカ	タカ	ノスリ	1	1	2
13	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	1	0	1
14	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	0	1
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	0	4	4
16		ヒタキ	シロハラ	1	0	1
17			ツグミ	2	0	2
18		スズメ	スズメ	1	0	1
19		セキレイ	ハクセキレイ	3	2	5
合計		10 目	15 科	19 種	172	129

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 4 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				冬季(1月)				
				L1		L2		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	スズガモ	0	0%	1	1%	1
2	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	0	0%	1	1%	1
3			ハジロカイツブリ	0	0%	1	1%	1
4	ハト	ハト	キジバト	4	5%	9	7%	13
5	カツオドリ	ウ	カワウ	25	28%	35	29%	60
6	ツル	クイナ	オオバン	0	0%	2	2%	2
7	チドリ	シギ	イソシギ	0	0%	4	3%	4
8		カモメ	ユリカモメ	1	1%	0	0%	1
9	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	1%	0	0%	1
10		シジュウカラ	シジュウカラ	1	1%	2	2%	3
11		ヒヨドリ	ヒヨドリ	23	26%	45	37%	68
12		メジロ	メジロ	10	11%	4	3%	14
13		ヒタキ	シロハラ	1	1%	1	1%	2
14			ツグミ	5	6%	10	8%	15
15			ジョウビタキ	1	1%	1	1%	2
16		スズメ	スズメ	11	13%	0	0%	11
17		セキレイ	ハクセキレイ	1	1%	1	1%	2
18		ホオジロ	アオジ	4	5%	5	4%	9
合計	7 目	15 科	18 種	88	100%	122	100%	210
				13 種		15 種		18 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 5 定点観察調査結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				冬季(1月)				
				P1	P2	P3	P4	
1	カモ	カモ	スズガモ	9	3	1	0	13
2	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	2	0	0	1	3
3			ミミカイツブリ	1	0	0	0	1
4			ハジロカイツブリ	0	2	2	1	5
5	ハト	ハト	キジバト	0	0	4	0	4
6	カツオドリ	ウ	カワウ	10	2	7	14	33
7	ツル	クイナ	オオバン	2	4	0	0	6
8	チドリ	シギ	イソシギ	1	0	3	1	5
9		カモメ	ユリカモメ	0	1	2	0	3
10			ウミネコ	0	1	0	0	1
11			セグロカモメ	0	0	0	1	1
12			オオセグロカモメ	1	1	0	1	3
13	タカ	タカ	トビ	0	1	0	0	1
14	スズメ	カラス	ハシブトガラス	0	1	0	3	4
15		シジュウカラ	シジュウカラ	2	1	0	0	3
16		ヒヨドリ	ヒヨドリ	7	1	6	27	41
17		メジロ	メジロ	4	0	3	0	7
18		ヒタキ	ツグミ	0	0	3	0	3
19			ジョウビタキ	0	1	1	0	2
20			イソヒヨドリ	0	0	0	1	1
21			スズメ	スズメ	2	8	0	0
22		セキレイ	ハクセキレイ	0	1	1	2	4
23		アトリ	カワラヒワ	0	4	0	0	4
24		ホオジロ	アオジ	1	0	0	1	2
合計	8 目	17 科	24 種	42	32	33	53	160

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 (1) 鳥類確認種目録 (全調査回)

No.	種名	調査時期													
		第 1 回 (H27~28)										第 2 回 (H28~29)			
		夏季(6 月)		秋季(9 月)		冬季(1 月)		春季(4 月)		全季		秋季(10 月)		冬季(1 月)	
		北側	南側	北側	南側	北側	南側	北側	南側	北側	南側	北側	南側	北側	南側
1	マガモ								○		○	○	○	○	
2	カルガモ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3	オナガガモ												○		
4	スズガモ					○	○	○	○	○	○			○	○
5	ウミアイサ						○				○				
6	カンムリカイツブリ					○	○	○	○	○	○			○	○
7	ミミカイツブリ													○	
8	ハジロカイツブリ					○	○			○	○			○	○
9	キジバト				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ササゴイ				○						○				
12	アオサギ	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	
13	ダイサギ	○	○	○	○			○	○	○	○	○			
14	コサギ	○	○		○				○	○	○	○	○		
15	オオバン					○		○	○	○	○			○	○
16	コチドリ							○	○	○	○				
17	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ユリカモメ					○	○	○	○	○	○	○		○	○
19	ウミネコ	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
20	カモメ							○	○	○	○				
21	セグロカモメ					○	○	○	○	○	○			○	○
22	オオセグロカモメ		○	○	○	○	○		○	○	○			○	○
23	コアジサシ	○	○							○	○				
24	ミサゴ					○				○		○			
25	ハチクマ			○						○					
26	トビ			○	○				○	○	○		○	○	○
27	ハイタカ								○		○				○
28	オオタカ					○				○		○	○		
29	ノスリ						○				○			○	○
30	カワセミ													○	
31	チョウゲンボウ				○				○		○				
32	ハヤブサ												○		
33	モズ											○			○
34	カケス												○		
35	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36	シジュウカラ	○	○	○	○		○			○	○	○	○	○	○
37	ツバメ		○					○	○	○	○				
38	ヒヨドリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	ウグイス					○	○			○	○			○	○
40	メジロ		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
41	ムクドリ	○		○		○		○	○	○	○	○			
42	シロハラ					○	○			○	○			○	○
43	アカハラ					○				○					○
44	ツグミ					○	○	○	○	○	○			○	○
45	ジョウビタキ					○				○				○	○

表 6 (2) 鳥類確認種目録 (全調査回)

No.	種名	調査時期													
		第 1 回 (H27~28)										第 2 回 (H28~29)			
		夏季(6 月)		秋季(9 月)		冬季(1 月)		春季(4 月)		全季		秋季(10 月)		冬季(1 月)	
		北側	南側	北側	南側	北側	南側	北側	南側	北側	南側	北側	南側	北側	南側
49	キセキレイ											○			
50	ハクセキレイ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
51	セグロセキレイ												○		
52	カワラヒワ	○	○			○	○			○	○	○	○	○	○
53	ホオジロ					○				○		○			
54	アオジ					○	○	○	○	○	○			○	○
55	オオジュリン											○			
56	ドバト	○	○		○	○				○	○				
合 計	56 種	14 種	18 種	16 種	19 種	29 種	25 種	23 種	29 種	41 種	40 種	24 種	20 種	30 種	27 種
		19 種		22 種		34 種		29 種		47 種		29 種		34 種	

表 7 船上センサス結果（第 1～2 回）

No.	種名	調査時期			
		冬季			
		第 1 回		第 2 回	
		北側	南側	北側	南側
1	カルガモ	6	0	2	0
2	スズガモ	0	130	76	67
3	ウミアイサ	0	1	0	0
4	カンムリカイツブリ	1	1	2	0
5	ハジロカイツブリ	0	0	1	1
6	キジバト	1	0	3	1
7	カワウ	49	22	63	48
8	アオサギ	0	0	1	0
9	オオバン	0	0	6	4
10	イソシギ	1	3	3	1
11	ユリカモメ	0	0	4	0
12	セグロカモメ	1	1	0	0
13	オオセグロカモメ	0	0	1	0
14	オオタカ	1	0	0	0
15	ノスリ	0	0	1	1
16	カワセミ	0	0	1	0
17	ハシブトガラス	2	0	1	0
18	ヒヨドリ	5	4	0	4
19	シロハラ	0	0	1	0
20	ツグミ	0	0	2	0
21	スズメ	13	301	1	0
22	ハクセキレイ	1	2	3	2
合計個体数		81	465	172	129
合計種数		11 種	9 種	18 種	9 種
合計島別種数		13 種		19 種	

表 8 ラインセンサス結果（第 1～2 回）

No.	種名	調査時期							
		冬季							
		第 1 回				第 2 回			
		L1		L2		L1		L2	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	スズガモ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%
2	カンムリカイツブリ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%
3	ハジロカイツブリ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%
4	キジバト	1	0.2%	0	0.0%	4	4.5%	9	7.4%
5	カワウ	34	6.6%	23	9.2%	25	28.4%	35	28.7%
6	オオバン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.6%
7	イソシギ	0	0.0%	2	0.8%	0	0.0%	4	3.3%
8	ユリカモメ	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%
9	セグロカモメ	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10	ミサゴ	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
11	ハシブトガラス	2	0.4%	1	0.4%	1	1.1%	0	0.0%
12	シジュウカラ	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	2	1.6%
13	ヒヨドリ	10	1.9%	6	2.4%	23	26.1%	45	36.9%
14	ウグイス	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
15	メジロ	0	0.0%	2	0.8%	10	11.4%	4	3.3%
16	シロハラ	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	1	0.8%
17	ツグミ	1	0.2%	2	0.8%	5	5.7%	10	8.2%
18	ジョウビタキ	1	0.2%	0	0.0%	1	1.1%	1	0.8%
19	イソヒヨドリ	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
20	スズメ	460	89.3%	200	80.0%	11	12.5%	0	0.0%
21	ハクセキレイ	0	0.0%	2	0.8%	1	1.1%	1	0.8%
22	カワラヒワ	0	0.0%	7	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
23	ホオジロ	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
24	アオジ	3	0.6%	3	1.2%	4	4.5%	5	4.1%
合計		515	100%	250	100%	88	100%	122	100%
		11 種		12 種		13 種		15 種	

表 9 定点観察調査結果（第 1～2 回）

No.	種名	調査時期															
		冬季															
		第 1 回								第 2 回							
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	スズガモ	12	4.8%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	9	21.4%	3	9.4%	1	3.0%	0	0.0%
2	カンムリカイツブリ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.5%	2	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.9%
3	ミミカイツブリ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4	ハジロカイツブリ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.3%	2	6.1%	1	1.9%
5	キジバト	1	0.4%	1	0.5%	4	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	12.1%	0	0.0%
6	カワウ	16	6.4%	3	1.4%	4	2.9%	23	52.3%	10	23.8%	2	6.3%	7	21.2%	14	26.4%
7	オオバン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.8%	4	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
8	イソシギ	0	0.0%	1	0.5%	1	0.7%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%	3	9.1%	1	1.9%
9	ユリカモメ	1	0.4%	1	0.5%	1	0.7%	1	2.3%	0	0.0%	1	3.1%	2	6.1%	0	0.0%
10	ウミネコ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
11	セグロカモメ	1	0.4%	1	0.5%	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.9%
12	オオセグロカモメ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.3%	1	2.4%	1	3.1%	0	0.0%	1	1.9%
13	トビ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
14	ハシブトガラス	2	0.8%	1	0.5%	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%	0	0.0%	3	5.7%
15	シジュウカラ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.8%	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
16	ヒヨドリ	9	3.6%	11	5.1%	9	6.6%	10	22.7%	7	16.7%	1	3.1%	6	18.2%	27	50.9%
17	ウグイス	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
18	メジロ	0	0.0%	2	0.9%	2	1.5%	2	4.5%	4	9.5%	0	0.0%	3	9.1%	0	0.0%
19	ムクドリ	0	0.0%	2	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
20	ツグミ	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	3	9.1%	0	0.0%
21	ジョウビタキ	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%	1	3.0%	0	0.0%
22	イソヒヨドリ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.9%
23	スズメ	200	80.3%	187	86.2%	110	80.9%	0	0.0%	2	4.8%	8	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
24	ハクセキレイ	0	0.0%	1	0.5%	2	1.5%	1	2.3%	0	0.0%	1	3.1%	1	3.0%	2	3.8%
25	カワラヒワ	0	0.0%	2	0.9%	1	0.7%	2	4.5%	0	0.0%	4	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
26	ホオジロ	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
27	アオジ	0	0.0%	3	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.9%
合計		249	100%	217	100%	136	100%	44	100%	42	100%	32	100%	33	100%	53	100%
		12 種		14 種		11 種		9 種		12 種		15 種		11 種		11 種	

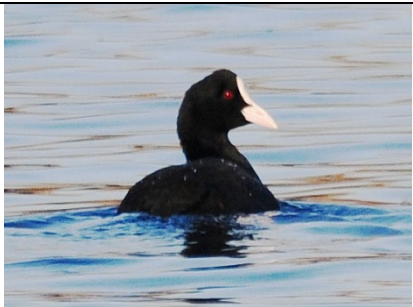
 スズガモ(重要種)	 カンムリカイツブリ(重要種)
 ミミカイツブリ	 ハジロカイツブリ
 カワウ(巢上のつがい)	 オオバン(重要種)
 イソシギ(重要種)	 ユリカモメ
 トビ(重要種)	 ハイタカ(重要種)

写真 2 (1) 鳥の島で確認した主な鳥類

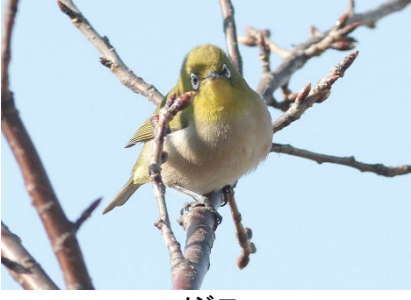
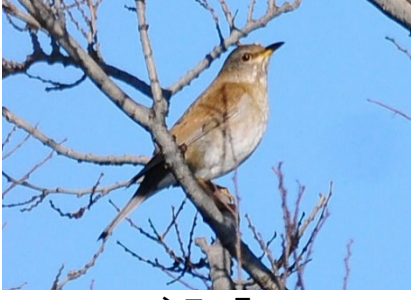
 ノスリ(重要種)	 カワセミ(重要種)
 モズ(重要種)	 ヒヨドリ
 メジロ	 シロハラ
 ツグミ	 ジョウビタキ
 アオジ	 フクロウ類の羽根

写真 2 (2) 鳥の島で確認した主な鳥類